

唐澤 誠展から

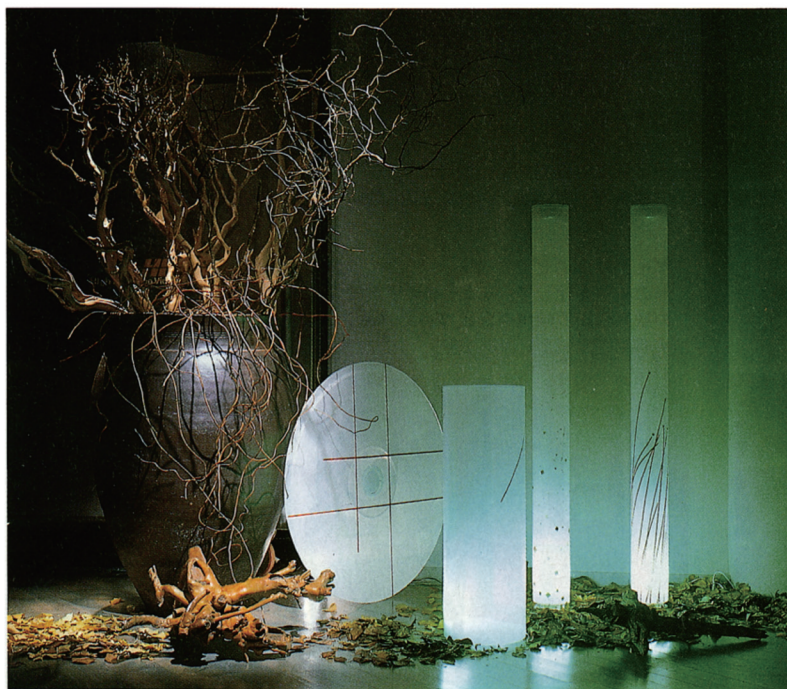
新しいスピーカーの形

高性能高品質が永らく追求されてきたスピーカーの世界。音響設計に携わる唐澤誠氏（唐澤誠建築音響設計事務所）は、技術面に隠れてしまった音が人間社会に及ぼす影響に目を向けた。個展では総合的な音環境、また住空間を意識したスピーカーの形態、スピーカーが人間に与える心理などの問題意識を基に和のテイストをデザインに加えたスピーカーを提案している。ひとつの試みとしてメーカーに今後、商品化を働きかけていく予定である。

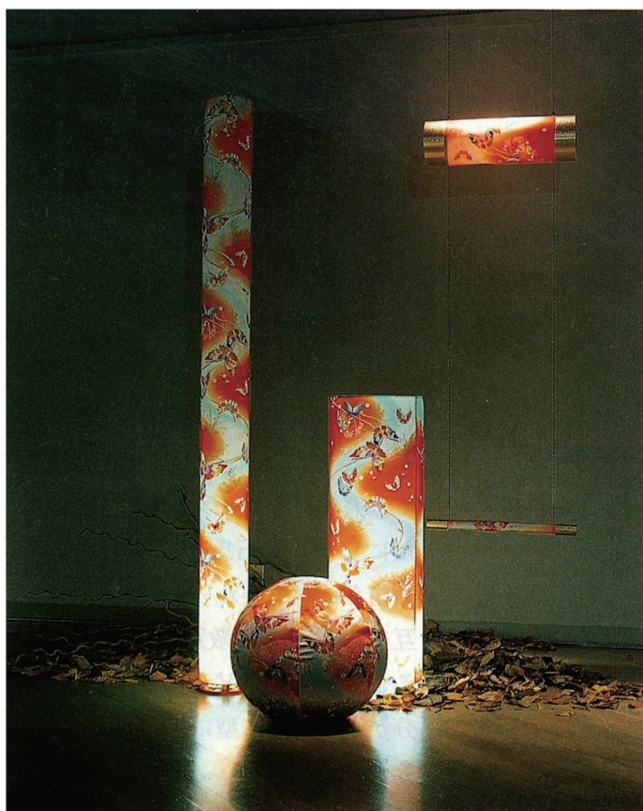
真：小菅 典明



展示会場の中央にセットされた作品。左ふたつがスピーカー。左端の太鼓：300φ、H500。ポリレーヨンひも、化粧フィルム



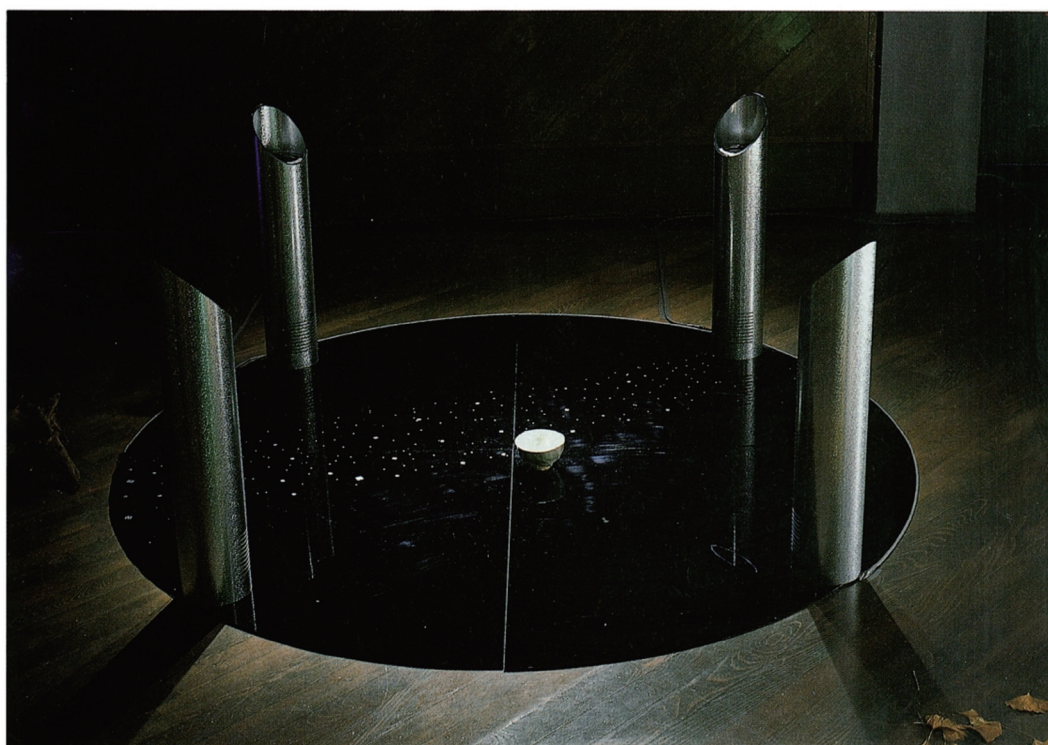
アクリルを用いたスピーカー4点。右ふたつの円柱：150φ、H1600、アクリル管の上和紙ラミネート加工シート貼り



加賀友禅を貼ったもの。左端：150φ、H1830。アクリルの上加賀友禅貼り。中央の玉は着せ替えも可能：450φ



左端の作品：300φ、H1500、鉄板の上焼付塗装



茶室をイメージしたもの。4つの円柱の上部から音が流れる。中央の円：2000φ、D10。円柱：150φ、H700。すべてアクリルの上化粧フィルム貼り